別添資料６

足立区

令和８年度　施策評価表

（令和７年度実績分）

【足立区子ども・子育て支援事業計画】

足立区教育委員会

子ども家庭部子ども政策課

はじめに

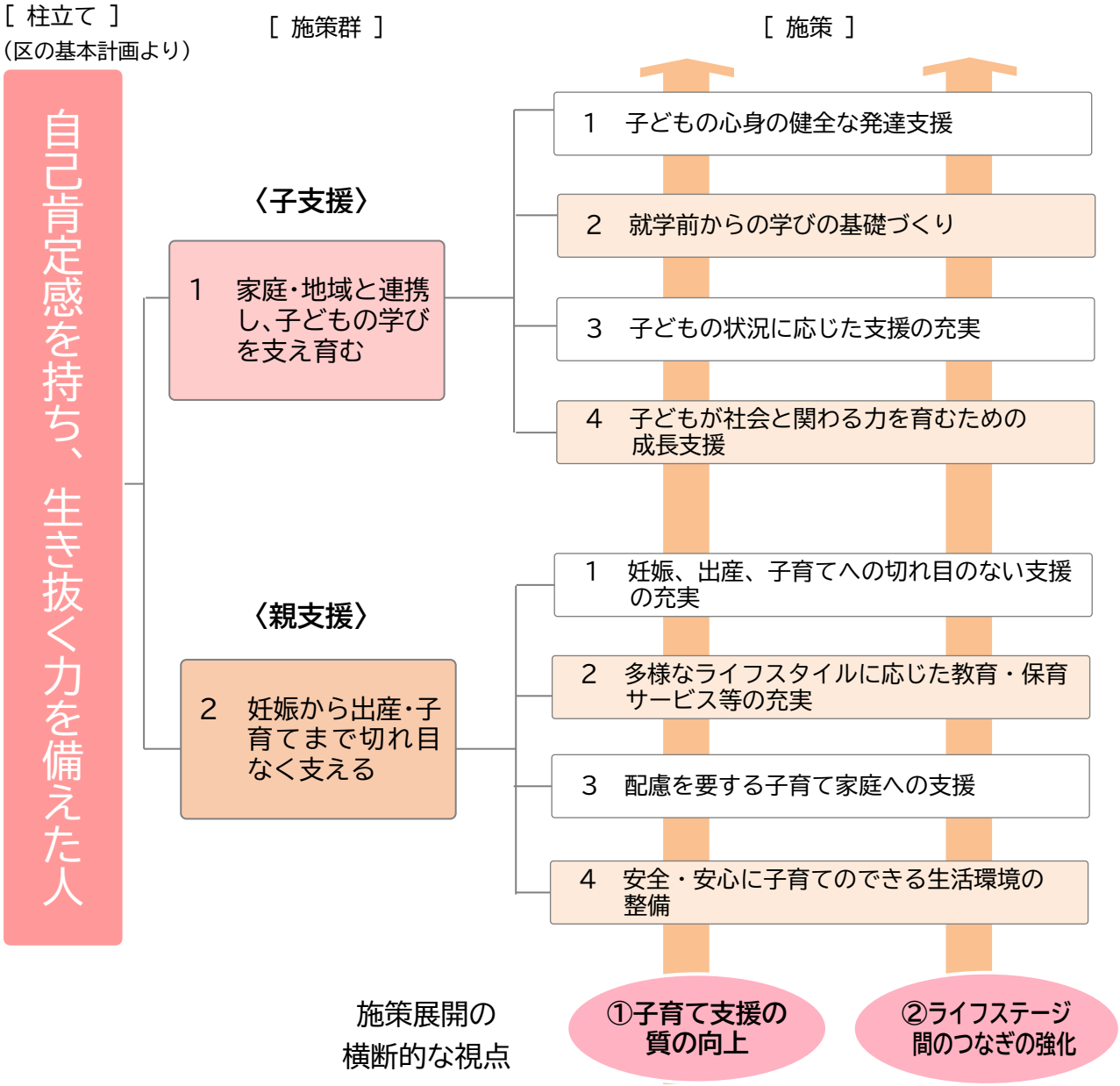
足立区では、「子ども・子育て支援法」に基づき、平成２７年３月に『足立区子ども・子育て支援事業計画』を策定、さらに令和２年３月に第２期、令和７年３月に『第３期足立区子ども・子育て支援事業計画』を策定いたしました。

「夢や希望を信じて生き抜く人づくり」という足立区教育大綱の基本理念のもと、第１期・第２期の取り組みの成果や課題を踏まえ、「子育て支援の質の向上」と、支援が途切れないよう「ライフステージ間のつなぎの強化」を重要な視点とし、各計画と連携しながら、切れ目のない支援による子育て環境の充実を目指し取り組んでいます。

第３期計画でも、令和１１年度までに足立区が取り組むべき施策を定めるとともに、各年度に実績を評価していきます。

※計画の進捗状況の管理については、PDCA サイクルのもと対象事業の実施状況等について客観的かつ専門的な立場から意見交換、調査・審議を行います。

【子ども・子育て支援事業計画の体系】



●各施策別の総合評価一覧(兼　目次)

【施策群1　家庭･地域と連携し、子どもの学びを支え育む】

施策（該当頁）	成果指標	最終目標に対するR7の進捗率	令和７年度総合評価（５点満点）
１－１（Ｐ４） 子どもの心身の健全な発達の支援	早寝・早起き・朝ごはんを心がけるようになったと回答した方の割合 むし歯がない６歳（年長児）の割合 ６歳（年長児）のむし歯り患率が０％の教育・保育施設の割合 １日３食、野菜（おかず・汁物など）を食べる幼児の割合 「親子で絵本を読む」と回答した方の割合	８７％	4
１－２（Ｐ８） 就学前からの学びの基礎づくり	指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の巡回訪問等の際に改善されていた保育施設等の割合 学童保育室の保護者満足度 基本的生活習慣が身についている小学校１年生の割合	９７％	4
１－３（Ｐ１０） 子どもの状況に応じた支援の充実	相談児童数のうち、関係機関と連携できた割合 発達支援児の行動上の課題が軽減した割合	９８％	5
１－４（Ｐ１２） 子どもが社会と関わる力を育むための成長支援	アンケートで「新しいことを知ったり、チャレンジしたい」と思った子どもの割合 あだち放課後子ども教室利用者満足度	９８％	5

【施策群２　妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える】

施策（該当頁）	成果指標	最終目標に対するR7の進捗率	令和７年度総合評価（５点満点）
２－１（Ｐ１４） 妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実	子育ては楽しいと感じる割合 保育コンシェルジュへの相談が役にたった方の割合	１００％	5
２－２（Ｐ１８） 多様なライフスタイルに応じた教育・保育サービス等の充実	保育需要に対する待機児童率【低減目標】 学童保育室の待機児童率【低減目標】 「男女が対等な立場で意思表示や活動をすることができ、また責任を分かち合っている」と感じている区民の割合	６７％	3
２－３（Ｐ２０） 配慮を要する子育て家庭への支援	虐待対応終結率 ひとり親家庭向け就労支援（資格取得・求職支援）事業修了者の就業率	７８％	3
２－４（Ｐ２２） 安全･安心に子育てのできる生活環境の整備	ユニバーサルデザイン推進計画の個別事業の評価点の平均値【子ども子育てに関係する事業】 よく行く、または行きたい公園がある区民の割合	９７％	4

【評価の流れ】

1 次評価（指標・事業ごとの担当課評価）

各指標及び事業の担当課にて、「成果指標」、「施策を構成する主な事務事業の進捗状況」の評価を実施

（１）成果指標
　ア　目標値を設定し、評価する年度の実績値を記載。
　イ　「成果指標の達成状況とその要因分析」、「計画上の２つの視点（子育て支援の質の向上とライフステージ間のつなぎの強化）を踏まえた今後の方向性」を記載。

（２）施策を構成する主な事務事業の進捗状況
　ア　目標値を設定し、評価する年度の実績値を記載。
　イ　一次評価、今後の方針、実績が目標値に対してどの程度どのように達成されたかを分析し、【事業評価】（課長評価）を記載。

2 次評価（子ども家庭部における施策の総合評価）

（１）最終目標（令和１１年度）に対する当該年度の進捗率、各成果指標の達成率や事業効果、方針の妥当性、各指標及び事業の担当課による一次評価等を踏まえ、子ども家庭部（子ども政策課）にて各施策を総合的に評価（以下の５段階）。

（２）評価点（５点満点）

５（良い）　←――→　１（悪い）

※ただし５段階評価によりがたい場合には、中間点（例：４．５等）を設ける場合がある

3 次評価（外部評価）

１次、２次評価の内容について、足立区地域保健福祉推進協議会（子ども支援専門部会を含む）にて委員から意見を聴取

施策群１

家庭・地域と連携し、
子どもの学びを支え育む



施策【1-1】

1　施策の概要

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	施策群	1　家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む
施策	1－1　子どもの心身の健全な発達の支援		
施策の方向性	家庭や関係機関との連携を通じて、子どもの心と体の基盤となる生活習慣づくりを推進します。		

2　成果指標 と 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

成果指標1

指標名	早寝・早起き・朝ごはんを心がけるようになったと回答した方の割合						担当課	子ども政策課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		85	92.8			90		
実績値		92.8					90.0%	100%
達成率		109%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析

目標値を上回ることができた。啓発物を刷新し、全5歳児に配付したことが取り組みやすさにつながったと考えられる。

子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性

就学前教育・保育施設や小学校と連携し、5歳児と小学1年生に啓発物を配付することで、就学前後の家庭における生活リズムの定着を促していく。

成果指標2

指標名	むし歯がない6歳（年長児）の割合						担当課	子ども政策課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		82	83.5			82		
実績値		82.9					82.0%	100%
達成率		101%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析

目標値を上回ることができた。4歳(年少児)以降は「奥歯のむし歯」が増加することを保護者ならびに教育・保育施設に伝え、むし歯予防に繋げている。

子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性

乳歯のむし歯予防は、永久歯の健全な育成に波及するため、引き続き、就学前のあだちっ子歯科健診ならびに歯みがき習慣づくりに取組んでいく。

成果指標3

指標名	6歳（年長児）のむし歯り患率が0%の教育・保育施設の割合						担当課	子ども政策課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		9	10			15		
実績値		8.5					15.0%	57%
達成率		94%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析

目標にはわずかに届かなかった。4歳(年少児)のむし歯ゼロ園は41.6%であるため、そのまま健康な状態が維持できるよう教育・保育施設に働きかけていく。

子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性

教育・保育施設と連携し、「新たなむし歯をつくらない」ことを目標に、歯みがきや歯によいおやつの習慣づくり等に取組み、「むし歯ゼロ園」の増加を目指していく。

成果指標4

指標名	1日3食、野菜（おかず・汁物など）を食べる幼児の割合						担当課	保健予防課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		27.3	27.5			30		
実績値		25.9					30.0%	86%
達成率		95%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析

目標にはわずかに届かなかったが、高い達成率を維持している。通園前等に十分な時間を取ることが困難であることから、朝食時の野菜摂取が少ない傾向にあると考えられる。

子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性

健やか親子相談や育児栄養相談、その他乳幼児健診などの機会を捉えて保護者への啓発を行うことにより、幼い頃からの野菜を食べる習慣づけを推進し、就学前の食育へつなげていく。

成果指標5

指標名	「親子で絵本を読む」と回答した方の割合						担当課	中央図書館
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		80	80			85		
実績値		80					85.0%	94%
達成率		100%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析

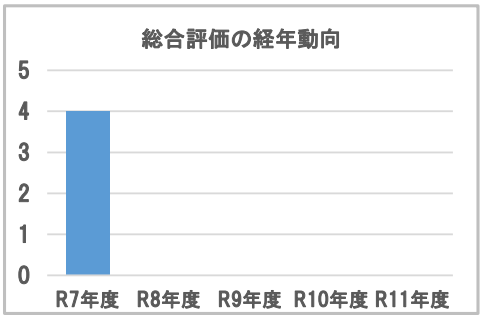
目標を達成することができた。A-Festaやドットリボンママフェスタ、夏の遊び場事業等の大型イベントへの出展や各種アウトリーチ事業により、絵本に触れる機会は広がっていると考えられる。

子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性

令和7年度に初めて子どもの発達段階に応じた適切な絵本の選び方や、親子で絵本を楽しむコツなど、講師と参加者の座談会方式によるイベントを開催した。令和8年度以降も引き続き実施をしていく。

3　子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価 R7年度	
4	【成果指標1】啓発物の刷新と全5歳児への確実な配付により、家庭での「早寝・早起き・朝ごはん」への意識が高まり、実績が目標値を上回ったことは高く評価できる。今後は、就学という大きな環境の変化を乗り越えられるよう、小学校とも連携しながら、低年齢期に築いた生活リズムが学校生活へ円滑に引き継がれる体制を強固なものにしてもらいたい。 【成果指標2，3】むし歯のない年長児の割合が目標値を上回り、改善傾向を維持していることは、口腔保健への意識が着実に向上している成果であり、高く評価できる。むし歯り患率0%施設の割合についても、高い達成率は各施設における粘り強い指導と工夫の成果であることがわかる。今後は、給食後の歯みがき実施など施設側の課題解決に向けた伴走支援をさらに深め、園と家庭が一体となって、子どもたちが生涯にわたり健やかな歯を保てる環境を、より一層盤石なものにすることを期待する。 【成果指標4】朝食時の野菜摂取など課題はあるものの、保健センターでの健康教室や巡回訪問を通じた粘り強い啓発活動が、食への関心を支える基盤となっている。今後は、家庭の状況に寄り添った具体的なアドバイスや他部署との連携を一層深め、幼児期からの正しい食習慣が子どもの生涯にわたる心身の健康へと繋がるよう、質の高い食育活動を展開してほしい。 【成果指標5】イベントへの出展や、引換率の低い会場における絵本の直接配付といった柔軟な施策展開により、親子が本に触れる機会が着実に広がっている。引き続き、発達段階に応じたアプローチやアウトリーチ事業を工夫し、読書が親子の絆を深め、子どもたちの豊かな知的好奇心と感性を育む大切な場となるよう後押ししてもらいたい。



4　施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
1	早寝・早起き・朝ごはんの推進【子ども政策課】	早寝・早起き・朝ごはんの取り組みを行った・行っていると回答した方の割合（%）※令和7年度に指標の一部を変更	目標値	81	83.5			85
			実績値	83.5				
			達成率	103%	0%			0%
	一次評価：A	今後の方針：改善・変更	【事業評価】（課長評価）	目標値の達成については、就学前教育・保育施設の協力が寄与したものと考えられる。今後は、各啓発物の活用方法に関する説明文等を一部修正し、よりわかりやすく改善するとともに、引き続き施設側の協力を得ながら、親子で楽しく取組める環境を整備する。また、4歳児を対象とした啓発物を作成・配付し、早期の認知度向上と生活リズムの定着に向けた取組を進めていく。				
2	歯みがき習慣づくり【子ども政策課】	年少児クラスから給食後の歯みがきに取り組む園の割合（%）	目標値	41	47.2			90
			実績値	43.9				
			達成率	107%	0%			0%
		年長児で仕上げみがきをほぼ毎日している保護者の割合（%）	目標値	82	85			90
			実績値	83.3				
			達成率	102%	0%			0%
	一次評価：A	今後の方針：現状維持	【事業評価】（課長評価）	足立区歯科医師会や保健センター等と連携して、教育・保育施設に働きかけたことにより、目標値を達成したと考える。年少児クラスからの給食後の歯みがき実施は、コロナ禍で中止以降、区立園を除き半減したままとなっている。歯ブラシの管理等、園が抱える課題を解決し、実施に向けて働きかけていきたい。保護者による仕上げみがきは、低年齢から継続して実施する必要性を教育・保育施設を通じて啓発していく。				
3	食育の推進事業【子ども施設指導・支援課】	「ひと口目は野菜から」の取り組み園数（園数）《【 】内は対象園（全園）》	目標値	160【210】	160【213】			184【217】
			実績値	115【210】				
			達成率	72%	0%			0%
	一次評価：B	今後の方針：改善・変更	【事業評価】（課長評価）	各園への栄養士巡回訪問時の声かけや、SNSの活用により事業の啓発に力を入れてきたが、目標値には達しなかった。アンケートの回答方法をオンライン形式に切り替えたことによる回答率の低下が要因のひとつとしてあげられるが、回答のあった施設の取り組み実施率は86%で前年度と同水準であった。健康的な食習慣の幼児期からの定着のため有効な取り組みであることから、啓発用媒体等を活用し取り組みを継続する。また、他部署連携としてチャレンジシート等の活用により、ひと口目は野菜から食べていくことの大切さを園児に向けて伝えていく。				

施策【1-1】

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
4	保健所での健康教育・食育の推進【保健予防課】	3～4か月児健康診査、育児学級、健やか親子相談の実施回数（回）《【 】内は参加者数》	目標値	564	573			600
				【5,910】	【5,935】			【6,000】
			実績値	604				
				【9,303】				
			達成率	107%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	各センター等において計画的に事業を実施しており、目標値を上回る達成率となった。3～4か月健康診査や健やか親子相談（生後1歳未満の乳幼児及び保護者対象）における健診や育児・健康等の相談は、早期からの食育に有効であることから、継続して実施していく。				
	A	現状維持						
5	図書館のアウトリーチ事業【中央図書館】	実施回数（回）	目標値	60	125			320
			実績値	239				
			達成率	398%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	ギャラクシティや女子医大江北医療センターでの出張おはなし会など、アウトリーチ事業を積極的に実施することで、普段図書館を利用しない人・読書に関心がない人も、読書の楽しさを知る機会を提供することができ、多くの区民に読書に触れる機会の提供を行うことができた。				
	A	現状維持						
6	あだちはじめてえほん【中央図書館】	絵本を受け取った人数（1歳6か月児）（人）《【 】内は全健診対象者》	目標値	3,360	3,400			3,520
				【4,000】	【4,000】			【4,000】
			実績値	3,334				
				【4,166】				
			達成率	99%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	令和6年度から引き続き絵本の引換率が低い「中央本町、東部」で、出張による絵本配付を実施している。令和8年度には千住庁舎の大規模改修に伴う千住保健センターの仮移転により、健診会場と絵本引換場所が同一の建物内ではなくなるため、改修終了まで出張引換を実施し、引き続き引換率の向上を図っていく。				
	A	現状維持						

施策【1-2】

1　施策の概要

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	施策群	1　家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む
施策	1－2　就学前からの学びの基礎づくり		
施策の方向性	教育・保育の質の維持・向上を図り、保育者の指導力を強化し、子どもたちの学びに向かう力を育みます。		

2　成果指標 と 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

成果指標1

指標名	指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の巡回訪問等の際に改善されていた保育施設等の割合						担当課	子ども施設指導・支援課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		100	100			100		
実績値		100					100%	100%
達成率		100%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
令和7年度に指導検査を実施した129施設のうち49施設に対し「文書指摘」、83施設に「口頭指導」を発した。（文書指摘と口頭指導の重複施設あり）	子どもたちがどの教育・保育施設に通っても、一定レベルの教育・保育サービスが受けられるよう、計画的に指導検査及び巡回訪問を実施し、施設に対しきめの細かい指導・支援を継続していく。

成果指標2

指標名	学童保育室の保護者満足度						担当課	学童保育課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		70	70			70		
実績値		65.6					70.0%	94%
達成率		94%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
実施調査や巡回訪問の中で助言指導を実施したが、保護者満足度は目標値に達しなかった。新規開設した施設が多く、すぐに満足度の向上につながらなかったのが要因として考えられる。	保護者アンケートで得られた結果を踏まえ改善策について助言指導していくとともに、より多くの意見を集約できるよう実施時期や周知方法を見直していく。

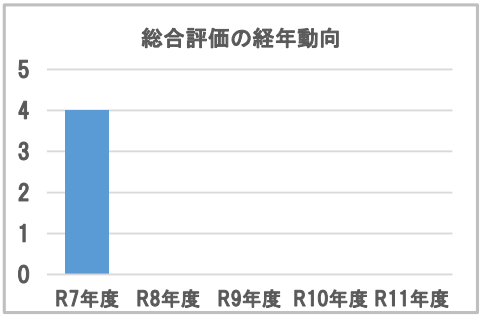
成果指標3

指標名	基本的生活習慣が身についている小学校1年生の割合						担当課	子ども施設指導・支援課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		90	90			90		
実績値		90.3					90.0%	100%
達成率		100%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
4月に入学した小学校1年生の児童を対象として実施したアンケートでは、基本的生活習慣が身についている1年生の割合は90.3%であり、目標を上回った。接続期教育研修に加え、教育・保育力向上研修を29回実施し、幼保小連携活動の推進や子ども理解・援助技術の向上を図った結果、子どもの学ぶ意欲が高まり、基本的生活習慣の獲得につながった。	今後は、接続期教育研修や教育・保育力向上研修のほか、とうきょうすくわくプログラムを活用し、子どもたちに必要な体験が幅広く実現できるようにしていく。また、子どもたちが幼児教育から小学校教育へ滑らかな接続ができるよう、幼保小連携活動を推進し、互いの教育・保育の理解を深め、子どもの育ちにつなげていく。

3　子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価 R7年度	
4	【成果指標1】計画的な指導検査と巡回訪問が各施設の教育・保育の質の維持・向上に確実に繋がっており、実績値も100%を達成している点は高く評価できる。今後は、各施設の課題に即したフォローアップを強化し、子どもたちがどの施設を利用しても質の高いサービスを享受できる環境を、より強固なものにしてもらいたい。 【成果指標2】学童保育室の保護者満足度が目標に達しなかった点は、施設拡充に伴うサービスの定着途上にあることが推察される。計画的な実地調査が遂行されていることは評価できるため、今後は利用者の声をよりきめ細やかに運営へと反映させ、ハード・ソフト両面から「放課後の居場所」としての質が向上していくことに期待する。 【成果指標3】小学校教育への円滑な移行を支える生活習慣の定着は概ね順調であり、保育者の指導力向上に向けた継続的な取り組みの成果といえる。しかし、年齢別の集合研修における参加率は原因分析が必要な課題である。今後は「とうきょうすくわくプログラム」等の積極的な活用を通じて、子どもの主体性を引き出す豊かな体験機会を広げ、学びの基礎をより一層養ってほしい。



4　施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
1	教育・保育の質の維持・向上事業（教育・保育施設）【子ども施設指導・支援課】	子ども・子育て支援法に基づく指導検査または巡回訪問等を実施した特定教育・保育施設等の割合（%）《【 】内は保育施設等の数》	目標値	100 【377】	100 【370】			100 【371】
			実績値	97 【367】				
			達成率	97%	0%			0%
	一次評価：A　今後の方針：現状維持	【事業評価】（課長評価）	巡回訪問はすべての施設で実施するため、実績値は基本的に100%となる。100%でない主な理由として、当初の予定から検査対象施設が減少したこと等がある。今後もすべての施設に指導検査または巡回訪問を行っていく。					
	教育・保育の質の維持・向上事業（学童保育室）【学童保育課】	全学童保育室のうち、実地調査を実施した学童施設の割合（%）	目標値	54.3	56.9			65
			実績値	54.3				
			達成率	100%	0%			0%
	一次評価：A　今後の方針：現状維持	【事業評価】（課長評価）	2年ごとの実地調査を設定し、想定通り実施することができた。今後も計画的に実施施設を選定し、学童保育室全体の保育の質を高めていけるようにしていく。					
2	保育士確保・定着対策【私立保育園課】	保育士等への経済的支援補助金利用者数（人）	目標値	1,000	975			1,000
			実績値	946				
			達成率	95%	0%			0%
	一次評価：A　今後の方針：現状維持	【事業評価】（課長評価）	保育士奨学金返済支援補助金（212人）、住居借上げ支援事業補助金（165園734人）を実施し、達成率は約9割となった。経済的支援の利用者数は高い水準で推移しており、保育士確保・定着に寄与している。保育士勤続5年を超える割合は上昇しているものの、依然3割程度に止まっている。職場の人間関係や業務負担も大きな離職原因であることから、現在の経済支援と並行して、各園の職場環境改善に向け、具体的な行動に繋がる支援を実施することが課題である。					
3	就学前教育の推進【子ども施設指導・支援課】	年齢別研修のうち、集合研修（運動）の参加割合（%）	目標値	70	70			70
			実績値	60.4				
			達成率	86%	0%			0%
		幼保小連携ブロック会議におけるあだち幼保小接続期カリキュラムの活用割合（%）	目標値	90	90			90
			実績値	86.4				
			達成率	96%	0%			0%
	一次評価：B　今後の方針：改善・変更	【事業評価】（課長評価）	年齢別集合研修（運動）を7回実施した結果、参加割合は60.4%であり、目標を下回った。（定員総数700人のうち、423人参加）。特に0歳児担任を対象とした研修の参加者は各回とも40人を下回っていた。今後は、各就学前施設に「子どもの意欲を引き出す遊具計画」を周知し、発達に応じた遊具の活用方法や保育者の関わり方の大切さを伝えるとともに、保育者研修の参加も促していく。また、幼保小接続期カリキュラムの活用割合は、213施設中185施設が活用しており、概ね目標どおりだった。					

施策【1-3】

1　施策の概要

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	施策群	1　家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む
施策	1－3　子どもの状況に応じた支援の充実		
施策の方向性	様々な悩みや課題を抱える子どもたちが、それぞれの状況に応じた支援が受けられるよう、支援体制の充実を図ります。		

2　成果指標 と 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

成果指標1	指標名	相談児童数のうち、関係機関と連携できた割合					担当課	支援管理課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		98	98			98		
実績値		95					98.0%	97%
達成率		97%	0%					

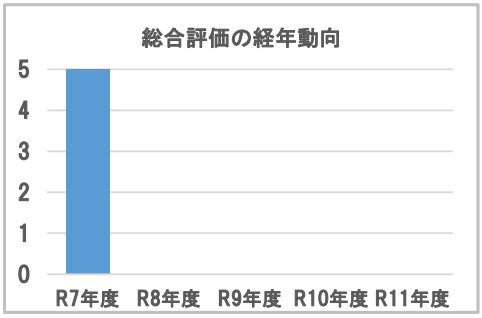
成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
来所相談後、不安の高い保護者に対しては継続的に電話相談や面接相談することで不安軽減に務め、関係機関とも連携することで保護者が安心して適切な支援につながることができた。	保護者がチューリップシートで児童の情報を就学先へつなげることで、就学先でのかかわり方やクラス配置の工夫の一助や保護者の不安軽減にもつながっているため、引き続き継続していく。

成果指標2	指標名	発達支援児の行動上の課題が軽減した割合					担当課	支援管理課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		95	99			95		
実績値		99					95.0%	100%
達成率		104%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
心理士が保育園に巡回訪問した際に、支援の必要な児童へのかかわり方や保護者への伝え方等を丁寧かつ具体的に助言したことで、行動上の課題が軽減した児童が増加したと考える。	心理士の巡回訪問の助言だけでなく、支援児に対する配慮事項を園全体で共有し、支援児を保育していく基盤を作る。

3　子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価 R7年度	
5	【成果指標1】「こども支援センターげんき」を拠点とした相談体制において、窓口相談に留まらず、電話や面接を通じた粘り強いフォローアップを継続している。こうした保護者の心情に寄り添った関わりが、家庭の安心感を醸成し、外部の専門機関への円滑な接続を支えている点は高く評価できる。今後は、乳幼児期に積み上げた支援の記録を就学先へと確実に引き継ぐ仕組みをさらに定着させ、環境の変化に左右されない一貫した支援体制をより強固なものにしてほしい。 【成果指標2】心理士等の専門職による各施設への巡回訪問を通じて、個々の特性に応じた具体的な援助技術が現場に浸透しており、児童が園生活において持てる力を発揮できる環境づくりが着実に進んでいる。また、現場のニーズを捉えた実践的な研修の充実により、従事職員の専門性が向上していることも大きな成果である。今後も、園全体で子ども一人ひとりの特性を尊重し、共に育ち合える基盤づくりの推進をしてほしい。



4 施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
1	発達支援児の早期発見・早期支援の取り組み【保健予防課】	3歳児健康診査受診率（%）《【】内は受診者数》	目標値	96	96			96
				【4,000】	【4,000】			【4,000】
			実績値	97				
				【4,031】				
			達成率	101%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	目標を達成した。3歳児健康診査は法定の健診となっており、障害や疾病を早期に発見し、進行を未然防止及び適切な治療開始など、目的発達に課題のある子どもを早期に発見することを目的としている。本事業はその後の養育等につないでいくための重要な役割を果たしている。				
	A	現状維持						
2	乳幼児経過観察健康診査・乳幼児療育指導【保健予防課】	乳幼児経過観察健康診査実施回数（回）《【 】内は受診者数》	目標値	76	80			80
				【460】	【480】			【480】
			実績値	81				
				【600】				
			達成率	107%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	各センター等において計画的に事業を実施することができており、目標を達成した。こども支援センターげんきと連携し、心身の発育・発達などに不安のある乳幼児の相談事業にげんきの心理士の派遣を行っている。心理相談や療育相談の結果から、継続的に関わることで保護者の受け止めや理解を促し、適切な支援につないでいる。				
	A	現状維持						
3	発達支援児の総合的支援【支援管理課】	相談児童数（人）	目標値	1,600	1,590			1,560
			実績値	1,474				
			達成率	92%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	児童数の減少の影響も考えられるが、新規相談件数もおおむね横ばいの状況である。保健センター支援や就学前機関への訪問支援において発達に困り感を抱える保護者の相談を受けたり、必要に応じて発達支援係の発達相談へつなげたりすることで、保護者や保育者が子どもとの適切なかかわり方の理解や不安軽減につながった。				
	A	現状維持						
4	従事職員のスキルアップ研修【支援管理課】	講座実施回数（回）《【 】内は延べ参加者数》	目標値	12	28			12
				900	750			【900】
			実績値	28				
				845				
			達成率	233%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	今年度からキャリアアップ研修を廃止し、現場で活かせる内容の障がい児保育研修とした。昨年度まではキャリアアップ研修のみの回数だったが、障がい児研修の数を加えたため数値に整合性がない。現場の困り感が高いものやすぐにでも取り入れられる内容の研修を、との現場の声に耳を傾けて研修内容を工夫してきた。				
	A	改善・変更						

施策【1-4】

1　施策の概要

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	施策群	1　家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む
施策	1－4　子どもが社会と関わる力を育むための成長支援		
施策の方向性	家庭や地域と連携しながら、様々な学び、体験の場を広げ、子どもたちが自らの可能性を伸ばしていけるよう支援します。		

2　成果指標 と 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

成果指標1

指標名	アンケートで「新しいことを知ったり、チャレンジしたい」と思った子どもの割合						担当課	青少年課 地域文化課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11 目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		90	90			90		
実績値		91					90.0%	100%
達成率		101%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
【指標1-体験教室】目標達成。イベントの開催形式の見直しによる提供プログラム数の拡充など、「子どもたちの興味関心に気づくきっかけづくり」に加え、「より高度な分野を学び、自身の興味関心を深める」ことを主軸に体験機会の充実を図ったことで指標数値が向上した。 【指標1-ギャラクシティ体験活動】令和9年3月ギャラクシティ休館を見据え、今までの体験や学びの機会に加え、クリエイティブデイズ、ロボットスポーツトーナメント等新たな事業も行い、子どもたちが体験活動に参加する機会の増加につながった。	【指標1-体験教室】児童・生徒の興味関心は、取り巻く環境によって変化することから、よりニーズに沿った事業となるよう、引き続き参加者のアンケート結果等に基づき新規事業の検討や既存事業の改善を図っていく。 【指標1-ギャラクシティ体験活動】子どもたちが文化芸術に関心を持ち、自己肯定感を高められる事業の実施と、地域文化倶楽部やGがくえんなど小学生から高校生までのライフステージの変化に対応したギャラクシティでの学び、体験の場を提供していく。

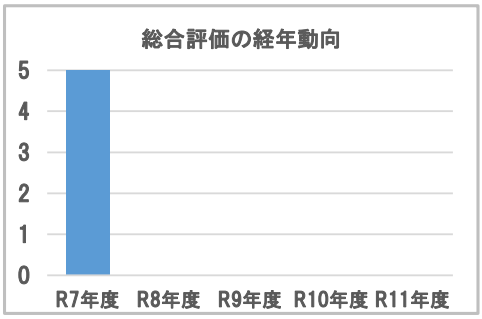
成果指標2

指標名	あだち放課後子ども教室利用者満足度						担当課	青少年課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11 目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		99	99			99		
実績値		96.1					99.0%	97%
達成率		97%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
目標にはわずかに届かなかった。アンケートで、96.1%の児童が「楽しい」と回答している一方、開催日数をもっと増やしてほしいという意見が多数あった。	週5日・全学年同時開催ができていない実行委員会に対し、運営支援を担う生涯学習振興公社をとおして、引き続き開催日増の働きかけをおこなう。（令和7年度末時点：週5日・全学年同時開催25校、37.3%

3　子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価 R7年度	
5	【成果指標1】大学との連携による高度な学びの提供や、ギャラクシティでの多彩な新規事業の展開により、子どもたちが未知の世界に触れ、新たな挑戦への意欲を高める環境が着実に整っており、目標値を達成している点は高く評価できる。一部で実施回数や定員の減少は見られたものの、プログラムの内容を精査し質の向上を図ったことが成果指標の達成に寄与したといえる。今後も、社会情勢や子どもの興味関心の変化を的確に捉え、自らの可能性を広げられる質の高い体験の場を継続的に創出してほしい。 【成果指標2】「あだち放課後子ども教室」において、全学年同時開催校の維持や多様な体験プログラムの導入を進めており、児童が異学年や地域住民と交流しながら安心して過ごせる場として定着している。活動日数の増加を望む声が多いことを受け、今後は運営を担う実行委員会との連携をさらに深めて充実した活動体制の構築に努めてもらいたい。



4　施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
1	体験活動（大学連携事業）の推進 【青少年課】	大学連携によるプログラムの提供回数（回） 《【 】内は参加した子どもの延べ人数》	目標値	33 【11,349】	36 【11,374】			90 【11,500】
			実績値	35 【11,304】				
			達成率	106%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）	担当教授の退任や担当学部生の減少など、やむを得ない事情により一部講座の実施回数や事業定員が減少したものの、依然として多くの児童・生徒に体験機会の提供を行うことができている。 また、体験内容（提供プログラム数）においては、全体で新たに5つのプログラムを拡充し、体験の質の向上を図ることができた。様々な体験活動機会の提供をとおして、児童生徒の健全育成に寄与している。					
	A / 現状維持							
2	ギャラクシティでの多様な体験活動の提供 【地域文化課】	イベント・ワークショップ実施回数（回） 《①【 】内は、上記のうち地元企業やボランティアとの協働による企画数》 《②【 】内は延べ総参加者数》	目標値	2,000 ①【280】 ②【130,000】	2,000 ①【280】 ②【130,000】			大規模改修工事により休館予定
			実績値	2,200 ①【450 】 ②【111,159】				
			達成率	110%	0%			
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）	事業開催数に関係なく、総参加者数はコロナ禍以前の人数に戻ってきている。令和7年度はメイン事業である大ひょうげん、こどもおしごとらんど、ジャパンフェスタや鉄道ミュージアムスペシャルに加え、クリエイティブデイズやロボットスポーツが新規で開催され大盛況であった。全体を通して様々な学びや体験の機会を子どもたちに提供することができた。					
	A / 現状維持							
3	あだち放課後子ども教室 【青少年課】	実行委員会と公社の話し合いにより全学年対象の実施校数（校）	目標値	67	67			67
			実績値	63				
			達成率	94%	0%			0%
		実行委員会と公社の話し合いにより開催する体験プログラム実施校数（校） 《【】内は異なる分野の体験プログラムを複数実施している校数（校）》	目標値	67 【35】	67 【35】			67 【35】
			実績値	50 【27】				
			達成率	75%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）	生涯学習振興公社からの各実行委員会への働きかけにより、全学年対象校数や体験プログラム実施校数が高い数値を維持している。引き続き、区と公社の連携を図るとともに、公社による各実行委員会への丁寧な運営支援を求めていく。					
	A / 現状維持							
4	ジュニアリーダーの育成 【青少年課】	子ども会のリーダーを育成する研修会の開催回数（回） 《【 】内は延べ参加者数》	目標値	53 【370】	59 【418】			67 【1,660】
			実績値	53 【379】				
			達成率	100%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）	予定通り、すべての回を実施することができた。 各地区少年団体協議会と協力し、SNSの活用など周知の強化を図ったことが、参加者数増の要因であると考えられる。引き続き、各地区少年団体協議会と連携し、回数及び参加人数の増加を図る。					
	A / 現状維持							

施策群２

妊娠から出産・子育てまで
切れ目なく支える



施策【2-1】

1　施策の概要

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	施策群	2　妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える
施策	2－1　妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実		
施策の方向性	子育て支援を充実させ、安心して妊娠、出産、子育てができるよう、切れ目なく支えていきます。		

2　成果指標 と 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

成果指標1	指標名	子育ては楽しいと感じる割合					担当課	保健予防課
	単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
	目標値		75.3	77.5			77.5		
	実績値		78.5					77.5%	100%
	達成率		104%	0%					

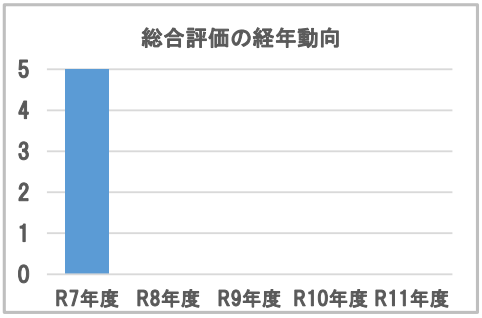
成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
目標を達成することができた。妊娠期から産後の継続した相談支援等が実績に繋がっていると考えられる。	妊娠期の面接によりハイリスク群の予測や一人ひとりに応じたケアプランを作成し、他機関と連携・協力しながら、安心して出産・子育てができる支援を行っていく。

成果指標2	指標名	保育コンシェルジュへの相談が役にたった方の割合					担当課	幼稚園・地域保育課
	単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
	目標値		99	99			99		
	実績値		100					99.0%	100%
	達成率		101%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
区役所窓口やオンライン相談の際に視覚的に分かりやすく説明できるよう、カラー写真や図表を多用したデジタルブックを導入したことが、利用者の満足度向上につながったと考えられる。	こども誰でも通園制度や一時保育など、家庭で保育する世帯に向けた情報発信を強化し、就労の有無にかかわらず、全ての保護者の保活に対する負担感の軽減を図っていく。

3　子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価	
R7年度	【成果指標1】妊娠届出時からの面接や「こんにちは赤ちゃん訪問」といったアウトリーチ型の支援に加え、乳幼児健康診査等を通じた相談環境が切れ目なく機能しており、保護者の孤立防止と安心感の醸成に大きく寄与している点は高く評価できる。こうした対面でのきめ細やかな関わりが、親が子育てを前向きに捉えるきっかけとなっており、指標の達成にも繋がっている。今後は、ハイリスク世帯への専門的な寄り添いを継続しつつ、利用が低迷している家事支援事業等のニーズを精査し、より家庭の状況に即した運用への改善を期待する。 【成果指標2】保育コンシェルジュにおいて、デジタルブックの導入による視覚的な情報提供やオンライン相談機能の強化といった利用者の視点に立った利便性の追求が過去最多の利用者数に加え、高い満足度という顕著な成果に結びついている。今後は、子育て支援アプリの普及を一段と加速させ、誰もが迅速かつ的確に必要な情報にアクセスできる体制をさらに強固なものにしてもらいたい。
5	



4 施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
1	妊婦健康診査 【保健予防課】	妊婦健康診査受診回数（回）	目標値	48,600	49,400			49,400
			実績値	50,614				
			達成率	104%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	目標を達成した。妊娠届出時に受診券（14回分）を配布するとともに、妊婦面接時等には受診回数の重要性を伝えている。胎児の発育状況の確認や母体の異常を発見するための重要な事業であるため、引き続き受診の啓発を行いながら着実に実施していく。				
	A	現状維持						
2	ファミリー学級 【保健予防課】	ファミリー学級学級数（数回） 《【 】内は参加者数（実人数）》	目標値	100 【2,150】	100 【2,150】			100 【2,150】
			実績値	93 【2,678】				
			達成率	93%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	達成率は93%と高く参加者数は目標値を超え、事業の需要は高いものと考えられる。当事業は各保健センター等では平日及び土曜日に、委託事業者により日曜日に実施している。パートナーと一緒に妊娠中の生活や食事・出産・育児につき学ぶとともに、パートナー向けの妊娠体験実習もあり、出産前の重要な事業となっている。特に需要が高い日曜開催については、令和8年度より年間13回から22回に拡充する。				
	A	改善・変更						
3	妊産婦家庭訪問事業 【保健予防課】	妊娠期から生後3か月までの支援対象者への訪問件数（件） 《【 】内は対象訪問件数(特に支援が必要な妊産婦×訪問4回)》	目標値	1,600 【1,600】	1,600 【1,600】			1,600 【1,600】
			実績値	1,542 【1,604】				
			達成率	96%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	達成率は96%であり、保健師の積極的な活動の結果である。。妊娠届やアンケート、スマイルママ面接により支援が必要な妊婦を把握し、保健師及び助産師が訪問や面接、電話などできめ細やかな指導や助言、相談を行っている。令和7年度の「特に支援が必要な妊産婦」は401人で、4回を目標に訪問した。ハイリスク妊産婦の支援を強化しつつ、妊婦全数面接により妊産婦の状況を把握し、育児に関する支援を行っている。				
	A	現状維持						
4	こんにちは赤ちゃん訪問事業 【保健予防課】	こんにちは赤ちゃん訪問事業訪問件数（件） 《【 】内は希望件数》	目標値	3,650 【3,650】	3,650 【3,650】			3,650 【3,650】
			実績値	4,297 【4,321】				
			達成率	118%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	達成率は100%を超えており、保健師の積極的な活動の成果である。生後3か月までの乳児がいる家庭を保健師・助産師が訪問し、乳児の発育・発達の確認や、産婦の体調管理の相談、育児のアドバイスを行っている。出生数に対する訪問希望数は94.1%であり、希望者に対しては全件数訪問している。需要も高く、出産直後の支援として重要な役割を果たしている。				
	A	現状維持						
5	乳幼児健康診査（3～4か月児・1歳6か月児歯科・3歳児） 【保健予防課】	乳幼児健康診査実施回数（回） 《【 】内は受診者数》	目標値	413 【11,620】	413 【11,620】			413 【11,620】
			実績値	413 【11,996】				
			達成率	100%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	各センター等で当該事業を計画的に実施し、実施回数及び受診者数とも目標値を超えた。各乳幼児健康診査は発育・発達の状況確認、疾病や異常の早期発見のほか、母親の育児軽減など、総合的な健診の場として重要な役割を果たしている。				
	A	現状維持						
6	子育て家庭訪問事業 【子ども政策課】	子育て家庭訪問事業訪問件数（件）	目標値	2,250	2,280			2,370
			実績値	1,795				
			達成率	80%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	予定どおり令和7年10月から事業を開始したが、生後5か月から1歳4か月までの対象世帯への事業認知に時間を要した。その結果、訪問件数は月平均1,795件にとどまり、目標達成には至らなかった。今後は、3～4か月児健診など対象世帯と接点となる機会を捉えて事業PRを強化し、訪問件数の増加を図ることで、より多くの子育て相談に応じ、必要な支援につなげていく。				
	B	改善・変更						
7	産前・産後家事支援事業 【子ども政策課】	年間延べ訪問件数（件）	目標値	1,250	1,300			1,550
			実績値	854				
			達成率	68%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	新規登録者数は増加傾向にある一方で、年間延べ訪問件数は目標を下回った。令和5年度までは年間1,000件以上の実績があったものの、それ以降は減少傾向にある。登録者数が増加していることから、妊娠・出産期における家事支援ニーズは高いと考えられる。今後は、受託事業者や利用者へのアンケート等により利用低下の要因を把握するとともに、他自治体の実施状況も踏まえ、事業内容や運用の見直しを行い、目標達成に向けた改善を図る。				
	B	改善・変更						

施策【2-1】

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
8	あだちファミリー・サポート・センター事業【子ども政策課】	年間延べ訪問件数（件）	目標値	5,588	5,701			6,036
			実績値	5,864				
			達成率	105%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		令和7年度は受託事業者と連携し、保育園の4月入所に合わせて「あだち広報」（2月10日号）で事業の周知を行った。さらに、利用者向けに動画を活用した利用案内を作成したことにより、目標を達成した。一方で、支援を担う提供会員の高齢化が進んでいることから、新たな人材の確保に努め、安定した事業運営につなげていく。				
	A / 現状維持							
9	子ども預かり・送迎等支援事業【子ども政策課】	年間延べ訪問件数（件）	目標値	17,828	18,198			19,308
			実績値	17,849				
			達成率	100%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		令和6年度の実績（18,260件）と比較するとやや減少しているものの、目標は達成した。令和7年度は、事業PRとして受託事業者と連携し、保育園の4月入所に合わせて「あだち広報」（2月10日号）で事業の周知を行った。また、支援を担う子育てホームサポーターの高齢化が進んでいることから、新たな人材の確保に努め、安定した事業運営を目指していく。				
	A / 現状維持							
10	子育てサロン【住区推進課】	イベント回数（回）《【 】内は参加者総数》	目標値	5,679 【62,987】	5,735 【89,270】			5,904 【105,408】
			実績値	7,535 【87,590】				
			達成率	133%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		子育てサロンを利用するきっかけの一つとしてイベントの実施を増やしてきた。参加者数も増え、子育てサロンの周知にも繋がっていると考えられる。引き続き、それぞれのサロンの特性（広さや利用者層）を活かしたイベントを実施していく。				
	A / 現状維持							
11	保育コンシェルジュ【幼稚園・地域保育課】	保育コンシェルジュ利用延べ人数（人）	目標値	4,600	4,600			4,600
			実績値	5,795				
			達成率	126%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		利用延べ人数は前年度と比較して972人増加し、過去最多の5,795人となり、目標値を大幅に上回った。また、東京都が進める保活ワンストップサービスのオンライン相談機能の導入や「こども誰でも通園制度」に関するオンライン説明会の開催等により、利用者全体に占めるオンライン利用の割合は44%（前年度比6.1ポイント増）となった。保護者の利便性を向上させることで、安心して子育てができる環境づくりに寄与している。				
	A / 現状維持							
12	あだち子育てガイドブックの普及【子ども政策課】	あだち子育てガイドブックの配布場所数（か所）《【】内は配布冊数》	目標値	72 21,000	74 20,500			80 【18,500】
			実績値	70 20,100				
			達成率	97%	0%			0%
		区ホームページのあだち子育てガイドブックアクセス数（回）	目標値	4,400	4,600			5,200
			実績値	4,459				
			達成率	101%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		全庁で実施している妊娠・出産・子育てに関する情報を、子育て世代に向けて周知している。配布場所は、庁内所属だけでなく、商業施設などへの設置協力も行い、概ね目標を達成した。またアクセス数も目標を達成し、デジタルによる情報発信も行えた。配布冊数は、電子版もあることから、過度な在庫とならないよう部数を毎年度精査している。令和7年10月からは子育てアプリによる情報発信も開始しているため、紙媒体とデジタルの特性を踏まえ、より効果的な情報発信となるよう、配布方法や作成部数の最適化を図っていく。				
	A / 現状維持							
13	子育て支援アプリの提供【子ども政策課】	子育て支援アプリの登録者数（人）	目標値	7,000	10,000			19,000
			実績値	4,275				
			達成率	61%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		「足立区あんしん子育てナビ」をリニューアルし、令和7年10月から提供を開始した。10月の登録者数は約1,800人であったが、11月以降は毎月約500人の新規登録にとどまり、目標達成には至らなかった。新規事業のため、対象者への周知が十分に行き届いていないことが考えられる。子育て家庭訪問事業（生後5か月～1歳4か月）と連携した対面での事業PRや、医療機関（産婦人科・小児科）へのチラシ配布など、接点機会を活用した周知を強化し、登録者数の増加につなげていく。				
	B / 改善・変更							

施策【2-2】

1　施策の概要

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	施策群	2　妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える
施策	2－2　多様なライフスタイルに応じた教育・保育サービス等の充実		
施策の方向性	安定的な保育サービスや学童保育室の整備により、保護者の働き方に応じた教育・保育等を提供していきます。		

2　成果指標 と 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

成果指標1	指標名	保育需要に対する待機児童率【低減目標】					担当課	保育・入園課
	単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
	目標値		0	0			0		
	実績値		0.73					0%	75%
	達成率		75%						

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
低減目標である実績値が前年から約18倍増となった。これは、令和8年度入園申請件数が1歳児クラスを中心に急増した影響である。都内自治体で同様の傾向が見られるため、保育需要の分析をより詳細に継続して行っていく。	妊娠期から育児休業、保活に関する情報収集、相談、保育施設の見学予約、申請までをオンラインで完結できるワンストップサービスを導入する。これにより、保護者・保育施設・自治体三者の負荷を軽減し、復職をはじめとする次のライフステージへの円滑な移行を図る。

成果指標2	指標名	学童保育室の待機児童率【低減目標】 ※各年度5月1日時点					担当課	学童保育課
	単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
	目標値		4	2			0		
	実績値		2.8					0%	56%
	達成率		143%						

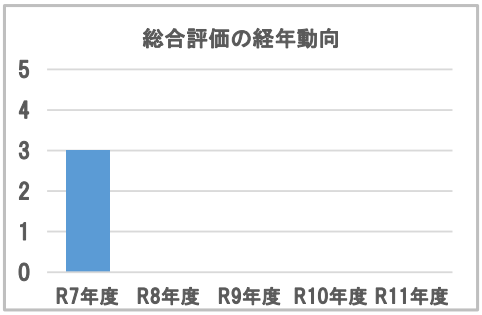
成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
校内学童保育室を2校で開設したほか、民設学童保育室を4室新たに開設し、受入を248人分拡大した結果、待機児童率の減少に大きく貢献した。	学童保育室の量の確保を引き続き進めていくほか、放課後子ども教室との一体的運用の拡大や児童館特例利用の活用促進などを通して、放課後の子どもの安全・安心な居場所の確保を推進していく。

成果指標3	指標名	「男女が対等な立場で意思表示や活動をすることができ、また責任を分かち合っている」と感じている区民の割合					担当課	多様性社会推進課
	単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
	目標値		35	37			50		
	実績値		35.6					50.0%	71%
	達成率		102%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
目標値35%に対し実績35.6%となり、目標を0.6%上回ることができた。民生児童委員への「あだち公的表現ガイド」の配付、男性の家事・育児参加促進を目的とした講座の実施に加え、共働き世帯の増加や働き方の柔軟化により家庭内の家事・育児の分担が進んできていること、学校や社会全体で男女平等意識が徐々に広まってきていることなどが要因と考える。	イベントや講座等によりアンコンシャス・バイアスや性別役割分担意識の解消について区民へ啓発することで、さらなる男性の家事・育児参加の促進を図る。

3　子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価 R7年度	
3	【成果指標1】保育需要に対する待機児童率が前年度から上昇したことは、1歳児を中心とした入園申請の急増が主要因と推察される。引き続き、需要の変動を的確に捉えた定員確保が不可欠である。また、情報収集から申請までをオンラインで完結させるワンストップサービスの実装により、利用者の利便性を高め、復職等のライフステージの転換期にある世帯を強力にバックアップする体制を構築してもらいたい。 【成果指標2】学童保育室の待機児童率は目標を達成しており、校内学童保育室や民間学童保育室の新設といった計画的な受入枠の拡大が、着実な成果として現れている点は高く評価できる。今後は、放課後子ども教室等との一体的な運用により、ニーズに合わせて最適な居場所を自由に選択できる、安全・安心な環境の充実を期待する。 【成果指標3】男女が対等な立場で責任を分かち合っていると実感する区民の割合が目標値を超えたことは、これまでの継続的な啓発活動や社会構造の変化を前向きに捉えた成果といえる。今後は、再構築したWLB推進事業の普及や、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）の解消に向けた啓発に注力することで、性別を問わず誰もが仕事と育児を無理なく両立できる受容性の高い社会風土の醸成をより一層進めてほしい。



4 施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
1	就学前施設の建て替え・改修【保育・入園課】	就学前施設建て替え・改修数（件）	目標値	6	8			14
			実績値	7				
			達成率	117%	0%			0%
	一次評価 A	今後の方針 現状維持	【事業評価】（課長評価）	屋根改修や屋上防水、外構改修など、建物の劣化を未然に防ぎつつ、計画的な維持管理を目的とした改修工事を随時実施した。現在進行中の建替え工事も含め、全体計画の進捗管理を適切かつ厳格に遂行していく。				
2	学童保育室の運営【学童保育課】	学童保育室受入可能数累計（人）	目標値	5,763	6,051			6,466
			実績値	5,751				
			達成率	100%	0%			0%
	一次評価 A	今後の方針 改善・変更	【事業評価】（課長評価）	令和7年4月開設に向けて、校内学童保育室2校（栗島小、古千谷小）を新たに整備したほか、民設学童保育室4室新規開設し、受入人数を計248人分増やすことができた。 今後も引き続き、校内学童保育室を最優先に学童保育室の量の確保に取り組んでいく。				
3	ワーク・ライフ・バランス（WLB）の推進【多様性社会推進課】	WLBを推進するため区内企業へ働きかけした件数（件）	目標値	3,000	3,000			2,000
			実績値	3,233				
			達成率	108%	0%			0%
		男性向け講座の実施回数（回） 《【】内は参加者数》	目標値	5 【120】	5 【120】			5 【160】
			実績値	5 【78】				
			達成率	100%	0%			0%
	一次評価 A	今後の方針 改善・変更	【事業評価】（課長評価）	令和7年度は、再構築したWLB推進事業（奨励金、専門家派遣、eラーニング等）を周知するため、区内中小事業者3,233者へチラシ発送にて周知したため、目標値を上回った。一方で見込み申請件数には届かなかったため、PR方法や事業者ニーズに合わせた支援メニューを検討する必要がある。男性向け講座は、委託講座の開催数が20回上限であることや講座テーマが多岐に渡る中で5回開催できたことは評価できる。一方で参加者数が目標を大きく下回ったので、出前講座や自主講座による開催数増や集客力のあるテーマの講座を開催するなど工夫が必要である。				

施策【2-3】

1　施策の概要

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	施策群	2　妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える
施策	2－3　配慮を要する子育て家庭への支援		
施策の方向性	児童虐待の発生予防や相談等にきめ細かに対応していくとともに、ひとり親家庭の経済的自立を促していきます。		

2　成果指標 と 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

成果指標1	指標名	虐待対応終結率					担当課	こども家庭相談課
	単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
	目標値		70	70			70		
	実績値		72					70.0%	100%
	達成率		103%	0%					

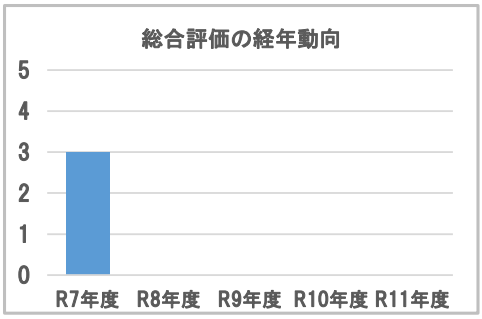
成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
児童虐待終結率は前年度比で大幅に増加している。事案内容の複雑・多様化によって長期的支援を要する案件が増加しているなかでも、システム構築等により、虐待対応に充てられる時間が増えたことが児童虐待終結率向上に寄与している。	虐待事案の複雑化かつ多様化に対応するため、こども家庭ソーシャルワーカーの専門職の活用や資格取得等をすすめ、児童虐待の予防、早期発見、再発防止に向けた取組を引き続き継続していく。

成果指標2	指標名	ひとり親家庭向け就労支援（資格取得・求職支援）事業修了者の就業率					担当課	親子支援課
	単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
	目標値		100	100			100		
	実績値		57.1					100%	57%
	達成率		57%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
高等職業訓練促進給付金及び自立支援教育訓練給付金の受給者で養成課程を修了した7名のうち、4名が就職につながった（内訳：正規雇用2、非正規雇用2）。1名は准看護学校から看護学校へ進学し、2名は取得資格を生かし就職活動中であることを踏まえると、目標値には及ばないものの、一定の成果は得られていると考える。	就職する上で有利となり、生活の安定に資する資格の取得を促進し、経済的自立に向けて就労を支援していくとともに、就労形態やライフスタイルの多様化に対応できるよう、国や東京都が提供する講座等も活用し、パートや派遣、在宅就労等も視野に入れた相談支援を提供する。

3　子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価 R7年度	
3	【成果指標1】事案の複雑化や多様化により長期的な支援を要するケースが増加するなか、システム構築等の運用改善によって虐待対応に充てる時間を十分に確保し、終結率を大幅に向上させた点は高く評価できる。また、駅頭での啓発や予防講座の着実な実施も、地域全体での見守り意識の醸成に寄与している。今後は、「こども家庭ソーシャルワーカー」等の専門職の更なる活用や職員の資質向上を図り、家庭の養育力向上に向けた切れ目のない支援体制をより強固なものにしてもらいたい。 【成果指標2】ひとり親向け就労支援事業において、養成課程を修了した者のうち半数以上が就職に繋がっており、就職していない者も進学や就職活動へ繋げている点は自立に向けた確かな歩みとして評価できる。一方で、事業全体の利用人数が減少傾向にあるため、今後は利用に至らなかった理由の分析を深めるとともに、ひとり親家庭応援アプリ等による積極的な周知の継続や、国や都の事業も活用しながら、正規雇用のみならず派遣や在宅就労といった個々のニーズに即した柔軟な支援を強化し、確実な経済的自立へと繋げることを期待する。



4 施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
1	きかせて子育て訪問事業【子ども政策課】	支援回数（回）《【 】内は利用者数》	目標値	200	225			300
				80	90			【120】
			実績値	251				
				92				
			達成率	126%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	利用者の多くが半年以上継続して利用しており、ニーズに応じた支援を継続できたことから、目標を達成した。本訪問事業を通じて、各世帯の不安や悩みに寄り添った支援が行えている。今後も受託事業者と連携しながら、子育て世帯に対する伴走支援を行い、孤独・孤立の防止につなげていく。				
	A	現状維持						
2	児童扶養手当【親子支援課】	児童扶養手当認定件数（件）	目標値	800	740			620
			実績値	673				
			達成率	84%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	足立区における0～18歳の人口減少に伴い、児童扶養手当認定件数も前年度比で32件減少となった。引き続き、対象となる方に手当が行き渡るように制度を広く周知していく。				
	A	現状維持						
3	ひとり親家庭応援メールの配信【親子支援課】	メール配信の情報件数（件）《【 】内は登録世帯数》	目標値	300	300			225
				【4,000】	【4,200】			【4,000】
			実績値	345				
				【4,069】				
			達成率	115%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	庁内他課や庁外の団体等からの配信依頼を待つだけでなく、積極的に配信を持ち掛けた。親子支援課で行っている事業についても定期的に周知を行った。また、ひとり親家庭向け情報のみでなく、子育てに関する情報を幅広く配信したため、配信数増加となった。今後も、庁内外から情報を収集し、対象者への積極的な情報発信及び事業の周知を行っていく。				
	A	現状維持						
4	就労支援事業【親子支援課】	ひとり親家庭向け就労支援事業を活用した人数（人）	目標値	150	150			210
			実績値	65				
			達成率	43%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	就労形態やライフスタイルが多様化していることも影響し、事業全体の利用者数は減少傾向にある。窓口アンケート等の実施により、当課の就労支援事業の利用に至らなかった理由等について分析を進める必要がある。正規就労による自立を目指す方に対しては従来の支援を継続するが、国や東京都が提供する講座等も活用し、パートや派遣、在宅就労等も視野に入れた相談支援を提供する。				
	B	改善・変更						
5	（区民向け）児童虐待予防講座の実施【こども家庭相談課】	講座の開催回数（回）《【】内は参加者数》	目標値	10	13			10
				【123】	【132】			【200】
			実績値	13				
				【120】				
			達成率	130%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	オレンジリボンキャンペーンについては、新たにウェットティッシュを駅頭で配布したことで、前向きに受け取ってくれる人が増えた。また、虐待予防講座についても、予定通り開催することができ、目標を達成することができた。引き続き、虐待の早期発見や予防に努める。				
	A	現状維持						
6	児童虐待対応【こども家庭相談課】	児童虐待受理件数（件）	目標値	1,470	1,500			1,530
			実績値	1,801				
			達成率	123%	0%			0%
	一次評価	今後の方針	【事業評価】（課長評価）	児童虐待受理件数は大幅な増加となった。面前DV（心理的虐待）や親になりきれない不安、孤立からのストレスなど、親の悩みをはじめとした様々な背景を起因とする通告は増加傾向にあるため、引き続き複雑化する虐待事案への体制強化を進めていく。				
	A	現状維持						

施策【2-4】

1　施策の概要

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	施策群	2　妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える
施策	2－4　安全・安心に子育てのできる生活環境の整備		
施策の方向性	妊産婦、子育て家庭等が安心して外出できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりを進めるとともに、全ての人が子どもの育ちを応援できる環境を醸成していきます。		

2　成果指標 と 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

成果指標1	指標名	ユニバーサルデザイン推進計画の個別事業の評価点の平均値【子ども子育てに関係する事業】					担当課	都市建設課
単位	点	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		3.8	3.9			4.2	4.2点	95%
実績値		4.0						
達成率		105%	0%					

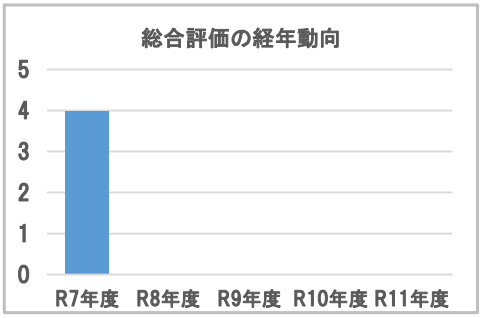
成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
令和7年度における対象事業の評価点が4.0点と目標値（3.8点）を達成したことは、バリアフリー法改正に伴う既存公立小中学校等のバリアフリー化の加速など、ハード面での整備が着実に進んでいることが評価されたものであると分析しており、計画に基づき質の高い施策展開、環境醸成を推進できている。	子育て世代も安心して利用できるよう、ユニバーサルデザインの視点を持ちながら、公共施設の整備を進めていく。また、次世代への啓発等を通じ、多様な人々が自分らしく暮らせる社会の実現に向けて取り組んでいく。引き続き、スピーディーかつ分かりやすい評価を行い、より効果的・効率的に推進していく。

成果指標2	指標名	よく行く、または行きたい公園がある区民の割合					担当課	パークイノベーション推進課
単位	%	R7	R8	R9	R10	R11	R11目標値	最終目標に対するR7の進捗率
目標値		51.9	52.3			53.5	53.5%	99%
実績値		53.1						
達成率		102%	0%					

成果指標の達成状況とその要因分析	子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
令和7年度は目標値を上回り達成した。 年代別では子育て世代（30代、40代）の回答割合が他の世代より高くなっている。	公園整備前の意向調査において、区HP、2次元コードの活用に加え、現地調査や小学校へのヒアリングを取り入れるなど、利用する子供たちの意見を反映した公園整備を進めていく。

3　子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価 R7年度	
4	【成果指標1】公立小中学校のバリアフリー化が着実に進捗したといったハード面での整備が、質の高い施策展開として評価に繋がっている。また、小学校高学年向けの出張講座は、実績が目標に届かなかったものの、SNS等を活用した啓発活動で補完しており、今後もハード・ソフト両面から誰もが安全・安心に暮らせる環境醸成を推進してほしい。 【成果指標2】区民の意見を取り入れ、テーマを持たせた公園整備が区民の満足度に現れており評価できる。専門業者による点検でD判定となった9基の遊具に対しては、速やかに閉鎖・修繕等の対応がなされ、安全性が維持されている。今後も、子どもたちが安全にのびのびと遊べる場を確保するとともに、公園の魅力発信を通じて地域全体で子どもの育ちを応援する機運をさらに高めてもらいたい。



4　施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）		R7	R8	R9	R10	R11
1	ユニバーサルデザイン(バリアフリー)の推進 【都市建設課】	ユニバーサルデザイン推進計画の個別事業の評価点（点）	目標値	4	4			4.2
			実績値	4				
			達成率	100%	0%			0%
		小学校高学年向けのユニバーサルデザイン出張講座の実施延べ回数（校）	目標値	10	10			10
			実績値	9				
			達成率	90%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		推進計画の個別事業評価点は4.0点と、目標を達成した。 ユニバーサルデザイン推進計画等との整合性を図りながら、ハード・ソフトとも実効性を高めた。評価については、既存公立小中学校のバリアフリー化の進捗が高く評価された。一方、出張講座の実施は、目標10回に対し実績9回と、わずかに目標に届かなかったが 、SNS等による地道な啓発活動により、区民等の視点に立ち、生活に影響する事業について成果向上に努めた。今後も推進計画の改定を見据え、子育て世代等を含む全ての人たちが安全・安心に暮らせるまちづくりを推進していく。				
	B / 改善・変更							
2	パークイノベーションの取り組みの推進 【パークイノベーション推進課】	パークイノベーションの考えに基づく、公園の改修、整備数（か所）	目標値	99	109			139
			実績値	80				
			達成率	81%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		パークイノベーション計画に基づき、地元の利用者の意見を取り入れながら「幼児が遊べる公園」「遊具遊びができる公園」など公園にテーマを設け、関原、江北地域の公園整備を行った。 公園改修数については、公園施設の長寿命化やまちづくり事業に伴う設計・工事案が集中したことにより改修案件が少なくなっている。先々の公園改修計画にしわ寄せがでないよう、令和10年度以降を見越した見直しを進めていく。				
	B / 現状維持							
	公園の魅力発信 【パークイノベーション推進課】	公園の魅力を伝える企画数（件）	目標値	22	22			22
			実績値	16				
			達成率	73%	0%			0%
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		月例イベントの情報は、公式ホームページへの掲載に加え、ニュースレターを通じて小学校や住区センター等へ配布している（対象：元渕江・花畑・都市農業・桑袋ビオトープ公園）。あわせて、改修済みの公園紹介についてもホームページで公開し、情報発信に努めている。				
	B / 現状維持							
3	公園等遊具の安全対策と修繕への取り組み 【公園維持課】	足立区公園遊具維持管理計画による年1回の遊具点検「早めに対処を要する遊具」のD判定とE判定数（基）【低減目標】 ≪【】内は全遊具数≫	目標値	0 【2,404】	0 R8夏頃確認			0 【2,450】
			実績値	9 【2,404】				
			達成率	99%				
	一次評価 / 今後の方針	【事業評価】（課長評価）		専門業者による点検を毎年実施することで、安全性を損なうこと無く公園利用者に遊具を使用してもらうことができた。引き続き安全な遊具の維持管理に努めていく。 D判定となった9件は、確認後速やかに閉鎖等の対応を行っており、維持管理上の問題は無かった。例年通り、低水準を維持しているため、今後の方針として現状維持とする。				
	B / 現状維持							